

環境異常・苦情未然防止の取組み

1. 弊社の会社概要
2. 環境異常・苦情未然防止の必要性
 - (1) 定義
 - (2) 環境変化と環境リスク
 - (3) 弊社の取組み
3. 取組み事項
 - (1) 監視の強化
 - (2) 仕組み改善
 - (3) 人の教育
 - (4) 設備の環境対策
4. 個別改善事例

中央精機株式会社
施設環境部
竹本

1. 会社概要

(1) 概要

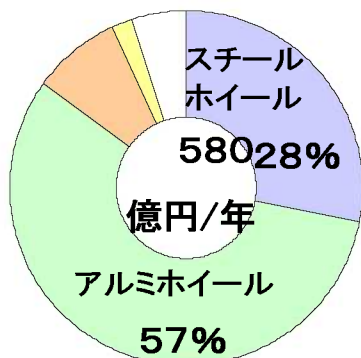
①中央精機株式会社(CMW)

②設立 昭和14年9月7日

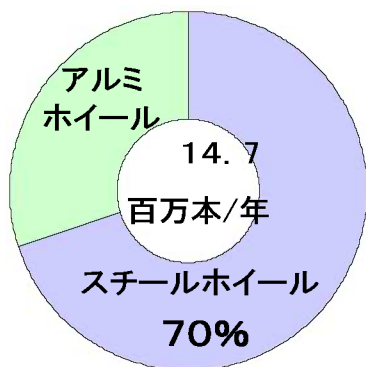
③資本金 47億5,440万円

④社員 約1,100人

⑤売上高
(除有支)



⑥ホイール
売上数



(2) 国内拠点・ 生産品目



豊田事業所
スチールホイール



豊田モジュール事業所
タイヤ組付

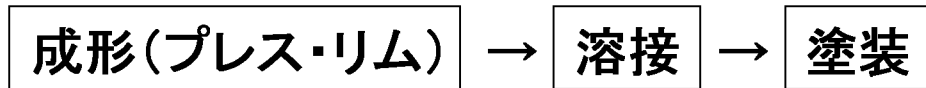


本社事業所
アルミホイール LPG容器



(3) ホイール製造工程(主要)

①スチールホイール



②アルミホイール



(4)主な得意先

- ・トヨタ自動車(株)
- ・ダイハツ工業(株)
- ・三菱自動車工業(株)
- ・本田技研工業(株)

(5)海外拠点

- 米国、中国、
タイ、台湾

トヨタ系の世界シェア約7%

ホイールメーカー

2. 環境異常・苦情 未然防止の必要性

なぜ、今、する必要があるのでか？

(1)環境異常・苦情って何？

異常

①環境法規の違反

- ・環境基準超え
- ・官庁立入指導

②社外流出事故

- ・公共水域へ油等を流出
- ・土壌に油や有害物質が浸透
- ・公道に廃棄物を飛散

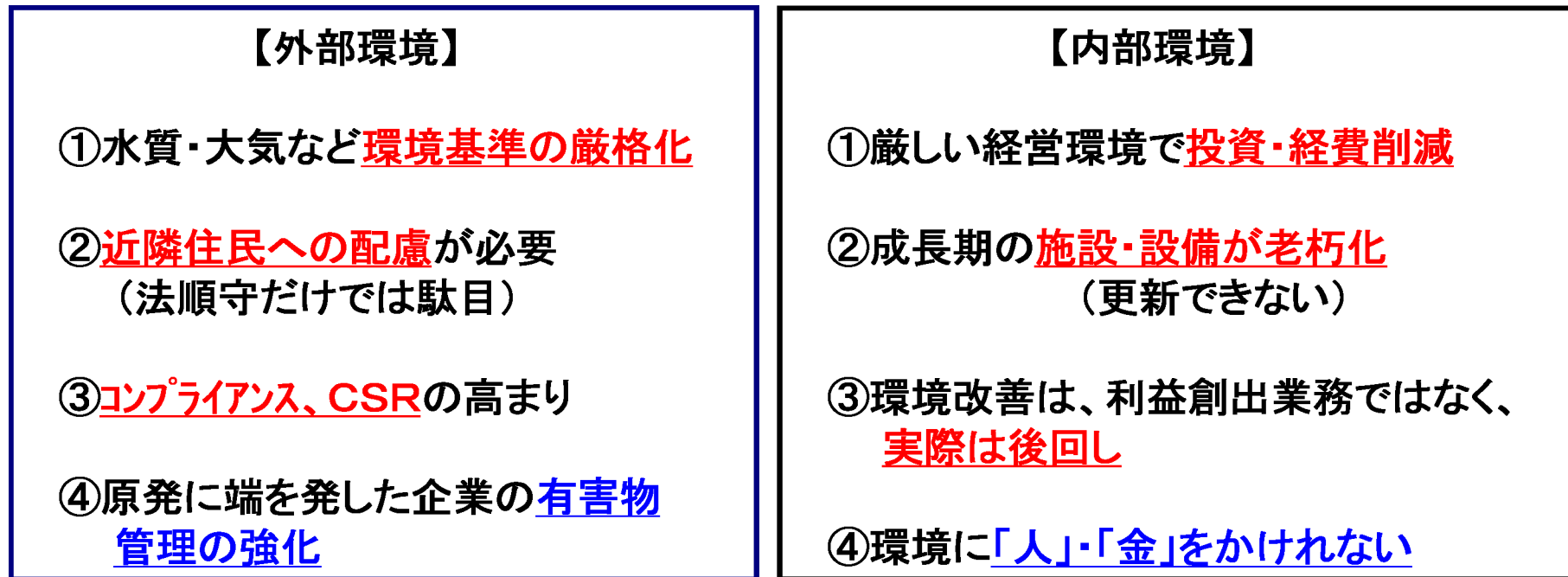
苦情

住民から申し出があり、法基準を超えていないが、
自社責任で被害を及ぼす

例：工場周辺の農作物・建物、車などに粉塵が付着

(2) 環境変化と環境リスク

2/11



環境リスクが増大！

- | | |
|------------------|-------------------|
| ①水質・大気・騒音等環境基準超え | → 生産停止 |
| ②特定施設届出・測定・報告・選任 | → 罰金・行政指導 |
| ③近隣住民からの訴訟 | → 補償金支払い・信頼性の欠如 |
| ④製品に有害物質が含有 | → 市場クレームの対策費 |
| ⑤有害物質・油類の社外流出 | → 流出防止・除染の対策費 |
| ⑥土壌汚染 | → 土地資産の目減り(売却不可も) |

(3) 弊社の環境取り組み

- ①01年度 環境部を新設、ISO取得(CO2・排出物などの活動)
- ②02～05年度 海外連結子会社も、ISO取得
- ③07年度～ 異常・苦情未然防止 活動開始 (客先要求あり)
- ④11年度～ // WGを発足 (全社組織化)

環境方針

従来、企業で環境活動と言えば

- ・CO2(空調・照明)低減
- ・排出物(紙・ゴミ)低減が中心



近年は、**環境リスク対策として**

異常・苦情未然防止も追加!

適切な地球環境を持続可能なものとするため
を目指し、自動車用ホイール、高圧ガス容器、
の全ての領域を通じて、積極的に環境保全に

規制およびその他の要求事項を順守すると
および地域の環境課題を踏まえた汚染の

定め自主的な改善計画を策定し、定期的な
的取組みを推進する。

み、情報収集を積極的に行い、環境と経済の
記項目の活動を推進する。

の構築に向けたCO₂低減

社会の構築に向けた排出物低減

苦情の未然防止

質の管理強化

当社で働く又は当社のために働く全ての人に
の理解と協力により効果的な環境保全を図る
表する。

2001年 3月 1日 制定
2011年 4月 1日 第4回改定

中央精機株式会社
取締役社長 東 幸雄

3. 取り組み事項

何をすれば良いのか？

- 3M {
- (1) 監視の強化
 - (2) 方法: Method (仕組み改善)
 - (3) 人の教育: Man
 - (4) 設備の環境対策: Machine
- } 改善費用が少額ですむ

【取り組み事項の推移】

項目	実施事項	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	
監視	監視機器の新設	■	■	■	■	■	■	別紙
	排水処理場の保守・点検の強化		■	■	■	■	■	
	観測井戸(地下水)の新設		■	■	■	■	■	
	警報システム(PHS・携帯)の新設		■	■	■	■	■	
	トップ監査					■	■	
	境界線 水質・騒音・悪臭パトロール					■	■	
	法規に基づく内部監査					■	■	
	近隣住民とのコミュニケーション					■	■	
仕組み	ヒヤリ情報の吸い上げ		■	■	■	■	■	別紙
	高濃度排水事前連絡		■	■	■	■	■	
	リスク評価と対策立案(法律別)					■	■	
	業者への環境対策を義務化					■	■	
	毒劇物管理のルール化						■	
	車両の油流出防止ルール化						■	
人	排水・油流出訓練	■	■	■	■	■	■	別紙
	環境KYTシート事例					■	■	
	リスクマップ作成					■	■	
	環境内部監査員への重点教育						■	
	工事業者への現地指導						■	
	トラック業者の監査(油流出防止)						■	
設備	緊急回収槽(排水)	■	■	■	■	■	■	別紙
	雨水遮断プレート		■	■	■	■	■	
	緊急備品箱の設置		■	■	■	■	■	
	防音ボード		■	■	■	■	■	
	設備総点検 あるべき姿と対比					■	■	
	水濁法改正 有害物地下浸透防止						■	

3
M

(1) 監視の強化

① トップ監査

6月社長・役員 の点検

- ・重要問題の提起
(共通認識を持ち、対策)
- ・過去ヒヤリ事例、改善事例



② 境界バトロール

敷地境界の測定、1回/6M

水質(PH・濁り・油浮遊)

騒音、臭気、粉塵など

町内会との緊密な関係がない
と不審に思われるので、注意！



④近隣住民とのコミュニケーション

町内会役員との「環境報告会」(年1回)

- 弊社の環境取り組みを説明
- 近隣住民意見を吸い上げ

組織・人がない、金を掛けられない、
工数もない・・・から何もしない
はリスク放置

社外工事で事前に近隣住民へ挨拶、
また町内会と話す機会を設ける等、近隣
住民との交流チャンネルを確保しておく

中央精機(株)の環境取組み

作成日: 2012年 8月 21日
中央精機株式会社
施設環境部

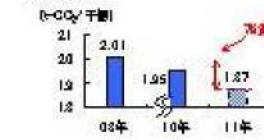
1. 環境重点取組み

当社は「省資源・環境保全」を経営理念のなかの一つとして掲げています。
2001年9月にISO14001環境マネジメントシステムを認証取得し、現在はより有効性のあるシステムを目指して取り組んでいます。



2. 取組み結果

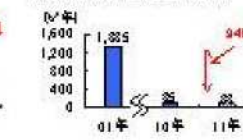
1) CO2原単位



<主な取組み事項>

- IT-池れ削減
- 自家発電の稼働利用
- 数値コンプレッサーの導入
- 照明の調光、LEDに変更
- 不良率削減 等

2) 廃棄物排出量(埋立+焼却)



<主な取組み事項>

- 加工油の再利用率
- 汚泥乾燥による減容化
- 木パレットを樹脂パレットに変更
- 梱包材の再利用 等

3) 有害化学物質買入使用量



<主な取組み事項>

- FILC、FILC配合有害塗料使用
- 塗装塗料効率の改善
- 化学薬品の購入管理 等

4) 近隣住民への異音・異臭防止活動

当社では特に下記3項目について重点で取り組んでいます。

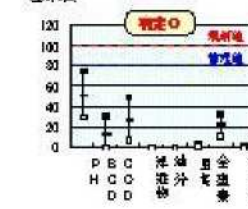


<主な取組み項目>

- 各環境法令に關する定期測定
- 社長以下環境(1)トロール実施(8月)
- 社内環境監査実施(2回/年)
- 排水処理水 水質の24時間連続監視

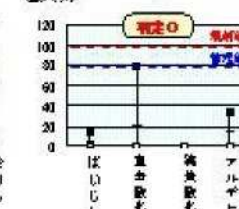
<環境測定値>

①水質

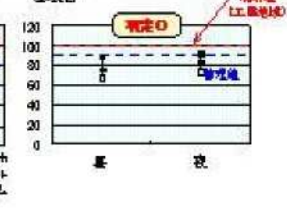


— 平均 ■ MAX □ MIN

②大気



③騒音



3. 今後の取組み

- 東日本震災の影響で原発停止により、更なる厳しい電力需給状況の中で、工場での省エネ・節電活動を積極的に進め、弊社としては電力需給ピーク時(夏季・冬季)の最大電力の抑制に努めていきます。
* 節電/1トロールの実施: 節電の実施状況等のチェック、フォロー
- 日頃から近隣住民の方とコミュニケーションを図り環境問題を絶対におこさないよう、工場内の環境リスクを見える化して管理体制を強化します。

(2) 仕組みの改善

① リスク評価と対策立案

「**土壤汚染対策法**」

対象 塗装前処理薬品地下ピット



対策・監視状況

- ・ピットはコンクリート+防水セメント
- ・数年に一度清掃時に点検
(昨年点検:問題なし)
- ・下流に観測井戸(1回/6M点検)

現状調査

改善策

対策

評価・対策立案メリット

お金が無く、改善できなくても、問題を表面化させ、
共通認識を持ち、改善の知恵を出すことで、**社員の
改善技能向上、また異常感知力アップの効果**

有毒性
流出量
発生頻
り多

②工事業者への環境対策を義務化

工事安全チェックシートに環境対策を追記

排水・廃液、騒音・振動、粉塵、油流出、濁り水、廃棄物

			業者と自社でダブルチェック	業者	自社
8	環境対策	21	騒音・振動・粉塵に対し、仮囲い・養生シート・散水など対策しているか。	レ	○
		22	排水・廃液が発生する場合、処理方法を事前に確認しているか。	レ	○
		23	車両積載する塗料・油脂類の容器に流出対策をしているか。 また車両のエンジンオイルや作動油の漏れを確認しているか。	レ	○
		24	掘削に伴う濁りは、沈殿又はろ過を行い流出防止に努めているか。	レ	○
9	作業中	25	危険行為はしていないか。 (必要な保護具の着用,共同作業時は合図等はよいか)	レ	○
		26	適切な照明設備を使用しているか。	レ	○
		27	2S(整理,整頓)状態は良いか。(材料,機器の置き場,通路確保)	レ	○
10	完了後 (片付け,確認)	28	「空調機,照明」切り,「窓,シャッター」締め,「掲示物」取り外し忘れはないか。	レ	○
		29	作業及び休憩時に使用した場所の火の気を確認したか。(使用2H後)	レ	○
11	環境対策	30	廃棄物はマニフェスト等により種類・数量・処理方法など適切に対応したか。	レ	○

業者さんも順守して頂く

(3) 人の教育

① 環境KYTシート事例

30件作成

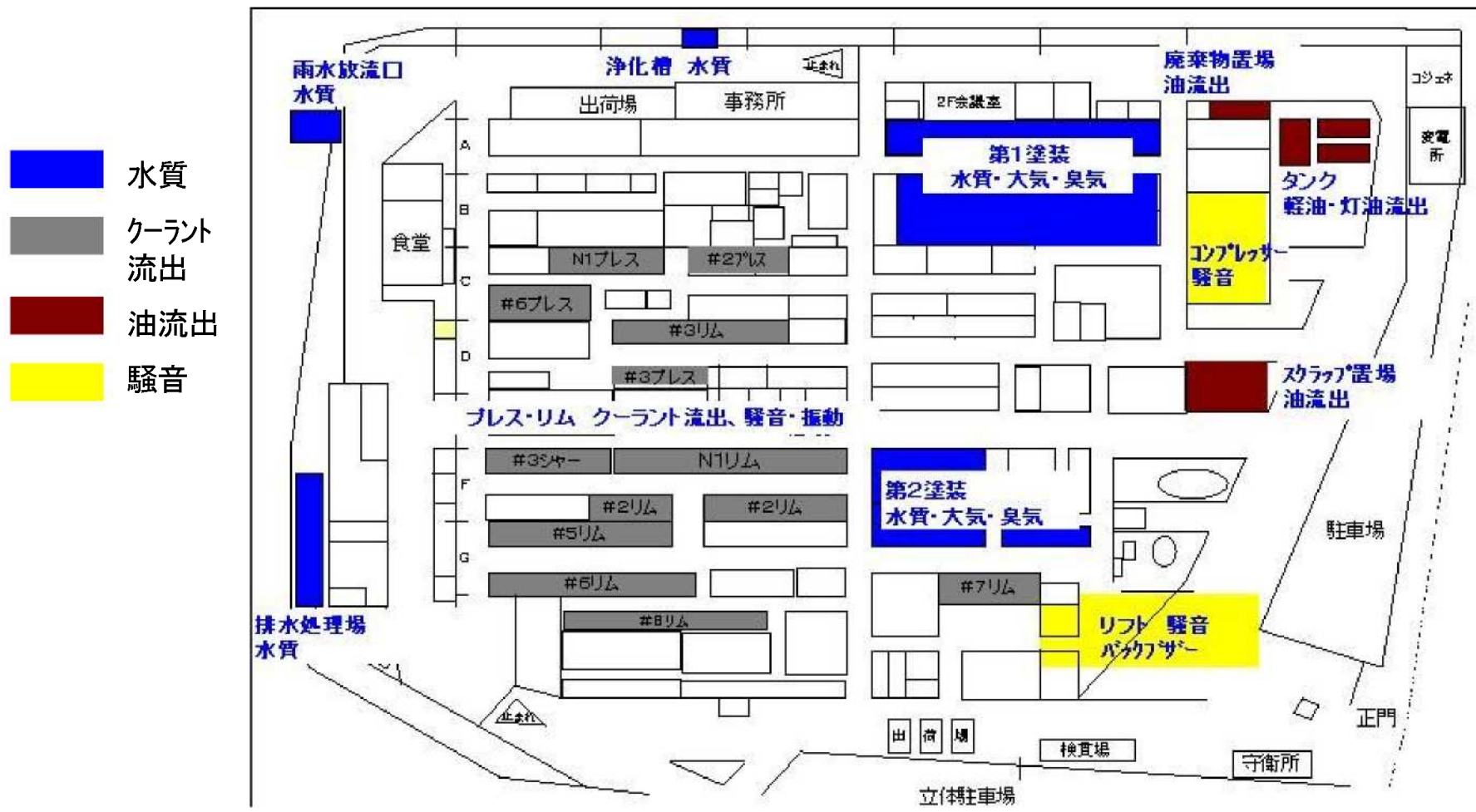
環境リスクは何か？

発生・流出対策は？

社員の意識改革
まず、環境リスクを認識

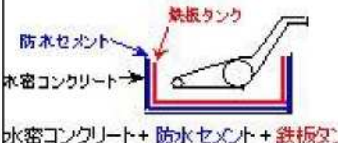
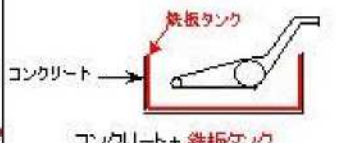
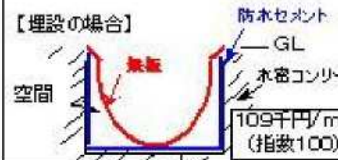

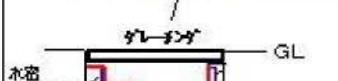

<p>KYT事例シート NO1</p>  <p style="color: red;">工場排水を 処理した後の 放流槽 (社外流出)</p>	<p style="text-align: center;">環境リスクは？</p> <p>①水質基準を超え排水の流出(水質汚濁)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">注意事項は？</p> <p>①-1流出対策 点検(人・機器)による水質監視 ①-2 // 緊急回収槽の設置 ①-3 // 緊急通報システム (不在時を含む) ①-4 // 計測機器の適切な校正 ①-5発生対策 処理場で適切な水処理</p>
<p>KYT事例シート NO2</p>  <p style="color: red;">ボイラ室横の汚水槽、 雨水側溝に隣接</p>	<p style="text-align: center;">環境リスクは？</p> <p>①厩から汚水がオーバーフローして 雨水側溝を経由し社外流出</p> <hr/> <p style="text-align: center;">注意事項は？</p> <p>①-1流出対策 汚水槽の点検 (満水警報・ポンプ等) ①-2 // 雨水側溝にせき止め ①-3発生対策 汚水槽は側溝から離す ①-4 // 性状に合致した槽・配管仕様</p>
<p>KYT事例シート NO3</p>  <p style="color: red;">機械加工 クーラントが漏こ</p>	<p style="text-align: center;">環境リスクは？</p> <p>①クーラントが地下浸透(土壌汚染)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">注意事項は？</p> <p>①-1流出対策 コーティング・ゴム板取付等補修 ①-2 // クーラント回収の仕組み ①-3 // コンクリタひび割れの定期監視 ①-4発生対策 設備導入時にクーラント を漏らさない構造に</p>

②リスクマップ作成



(4) 設備の環境対策

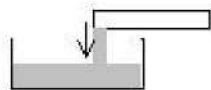
あるべき姿との対比

アルミ機械加工ライン あるべき姿と対策(案)		※水密コンクリート プール等に覆われる水密性の高いコンクリート (水セメント比55%以下)			
設備	あるべき姿(究極目標)	当社の目標	当社の現状	評価	対策(案)
チップコンベア			3・14ライン 防水コンクリートのみ (鉄板タンク無し)	×	鉄板タンク化 (見積5,7百万円)
トラフ	【地上化】 <ul style="list-style-type: none"> 容量 最大×2倍 材質 鉄(SS400) 全面溶接 【埋設の場合】 	【地上化】 <ul style="list-style-type: none"> 容量 最大1.2倍 材質 鉄(SS400) 全面溶接 【埋設の場合】 	【地上化】 <ul style="list-style-type: none"> 容量 最大1.2~1.5倍 材質 鉄(SS400) 全面溶接 【埋設の場合】 トラフは鉄板を敷き詰めている	○	新規導入時、 鉄板による 2重化
側溝		【常時クーラントが流れる】 	常時クーラントが流れているが、鉄板が	△	

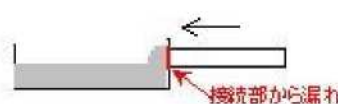
設備導入での環境対策

- 業者任せにせず、要求仕様に環境対策を盛り込む
- 法基準順守では不足、近隣住民への配慮(粉塵・騒音等)
が不可欠 (導入後の改善は割高!)

【その他問題】 側溝とトラフの接続部



OK



NG

4. 個別改善事例

別紙

	水質	大気	騒音	土壌
発生対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 高濃度排水の事前連絡仕組み構築 ② 水質(マテバラ)管理 	<ul style="list-style-type: none"> ① 設備導入時環境対策 ② 設備の点検整備 ③ 温度等設備運転管理 	<ul style="list-style-type: none"> ① 低騒音型設備導入 	<ul style="list-style-type: none"> ① タンク・ピット二重化 ② 発生防止の教育 (油類の納入・運搬時)
流出対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 監視体制の強化 (常時監視・傾向管理) ② 緊急回収槽 ③ 薬品調整(水質・コスト両立) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 暴露プレート設置による定期パトロール ② グリーンネット粉塵回収 	<ul style="list-style-type: none"> ① 防音壁、カバー ② リフト・サイレンの音量低下 ③ リフト運転手の教育 	<ul style="list-style-type: none"> ① 防液堤 ② 車両油流出点検追加 ③ 流出時の被害最小化 (回収備品の常備)
	毒劇物・危険物	有害物質	悪臭	地下水
発生対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 毒劇物管理強化 ・ 自社規定の策定 ・ 表示・管理の統一化 	<ul style="list-style-type: none"> ① トヨタ使用禁止物質の購入管理 ② MSDS入手の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ① 脱臭装置 ② 大気拡散防止 ③ 発生源の特定 	<ul style="list-style-type: none"> ① 浸透防止コーティング*
流出対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 管理部署の教育 ② 順守状況の定期監査 	<ul style="list-style-type: none"> ① 製品への有害物質非含有の評価・証明 	<ul style="list-style-type: none"> ① ビニールシート等封じ込め ② 排出ダクトの向き・長さの調整 	<ul style="list-style-type: none"> ① 観測井戸

(1)水質

①非定常排水の事前連絡

- ・目的 排水水質の確保
- ・概要 塗装清掃等で高濃度廃液が流れる場合、排水処理場に事前連絡するルール
- ・費用 起票、調査工数



排水・廃液排出連絡書 (発生部署 ⇒ 施設環境課 設置)

		発行部署	計	差
1. 排水区分	平日排水・休日排水 (※定常排水・高濃排水・確認)			
2. 排水日時	年 月 日 () 時 分 - 時 分			
3. 発生工程名				
4. 排水名				
5. 排水担当者名				
6. 排水理由	排出部署が起票			
7. 排水量	(単位:L又はm ³)			
8. 排水の低汚染品名及び濃度	使用品名	濃度 (ppm)	MSDSの有無	

発生部署への回答 (施設環境課 設置 ⇒ 発生部署)

		作成日	年	月	日
		専任	兼任	別当	
		印		印	
<p>調査申込書: 排水用データ用紙(30日以内) - データ用紙(10日以内) (印刷)</p> <p>回答部署 施設環境課</p>					
1. 受入れ開始	施設環境課 設置グループ	1. 有害物質の有無 (有/無) → 対象に○	有りの場合受入れ不可		
		2. 排水・廃液の濃度 (分析結果・希釈率による計算) → 対象に○			
		①COD ppm	②BOD ppm	③油分 ppm	
		④塩素 ppm	⑤りん ppm		
		2. 処理場排水権での濃度(希釈計算)			
		①COD ppm	②BOD ppm	③油分 ppm	
		④塩素 ppm	⑤りん ppm		
		4. 排水での処理 可能 不可能 → 対象に○			
2. 受入れ開始	施設環境課 設置グループ	=記 特 排水処理 ※理由] 受入れ			
		排水処理場 管理部署が回答			
3. 排水処理場対応	施設環境課 設置グループ	排水処理場対応 (必要・不要) 対応項目に○を付ける □排水権切替 □薬品注入量変更(No1PAC>凝集剤 No2PAC>凝集剤) ③希釈分添(No1-2-3排水権、加圧浮上出口、放流権)			
4. 排水処理 (排水処理)		排水処理を行う(処理 同意: 有り・無し) 備考 資料は添付資料参照			

②マテリアル・バランス管理

- ・目的 排水水質の管理
薬品投入量の削減

- ・概要 工程別に排水を分析
上流 設備汚水槽 20箇所
下流 排水処理場 5箇所

- ・費用 水質分析費

測定項目	No. 場所 単位	汚水槽				
		#2AL前処理 脱脂液	#2AL前処理 脱脂水洗	#2AL前処理 化成液	#2AL前処理 化成水洗	7L塗装 汚水槽
水素イオン濃度						
生物化学的酸素要求量	mg/L					
化学的酸素要求量	mg/L					
浮遊物質	mg/L					
ノルマルヘキサン抽出物質	mg/L					
硝酸性窒素	mg/L					
亜鉛含有量	mg/L					
窒素含有量	mg/L					
りん含有量	mg/L					
ニッケル	mg/L					
フッ素	mg/L					
有機体炭素(TOC)	mg/L					

問題発生時の変化点
調査に活用できる

③汚水槽管理の見える化

- ・目的 汚水槽のトラブル対策
(汚水オーバーフロー)

- ・概要 汚水槽の管理部署・点検
項目・頻度を見える化

配管に発生設備名を記入

- ・費用 看板・ラベル製作費

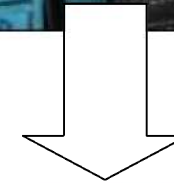
NO. 〇〇 汚水槽 (〇〇〇〇〇)

管理部署	〇〇〇〇〇部 〇〇〇〇〇課
環境リスク	雨水側溝等を経由し社外流出
点検項目	①フロートスイッチ ②ポンプ圧力 ③警報 ④内壁浸食・配管もれ ⑤汚泥量
点検頻度	1 回 / Y



④有害物質の地下浸透防止

- ・目的 塗装薬品ピットからの
有害物質地下浸透防止
- ・概要 コンクリート内側に
SUS張り(2重化)
- ・費用 工事費



SUS張り(2重化)

(2)大気

①粉塵暴露プレート設置

- ・目的 塗装粉塵の飛散調査
- ・概要 屋根の排気ダクト付近
プレートを設置して
半年間の粉塵付着
量と大きさを定量評価
- ・費用 プレート費、調査工数



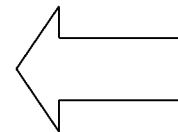
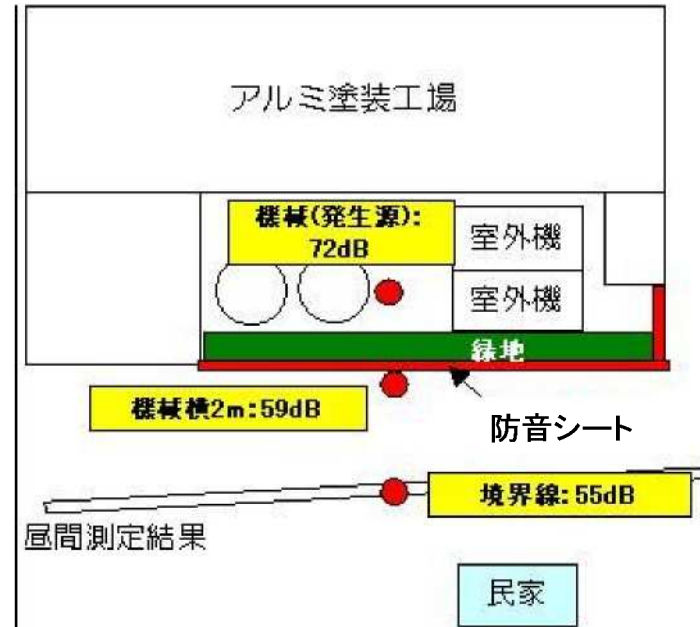
粉塵暴露プレート
(異常を察知)



(3)騒音

①防音シート

- ・目的 新設住宅への騒音対策
- ・概要 当初、防音壁を検討
割高のため、工事中
防音シートで覆った
- ・費用 シート費



②リフトによる騒音

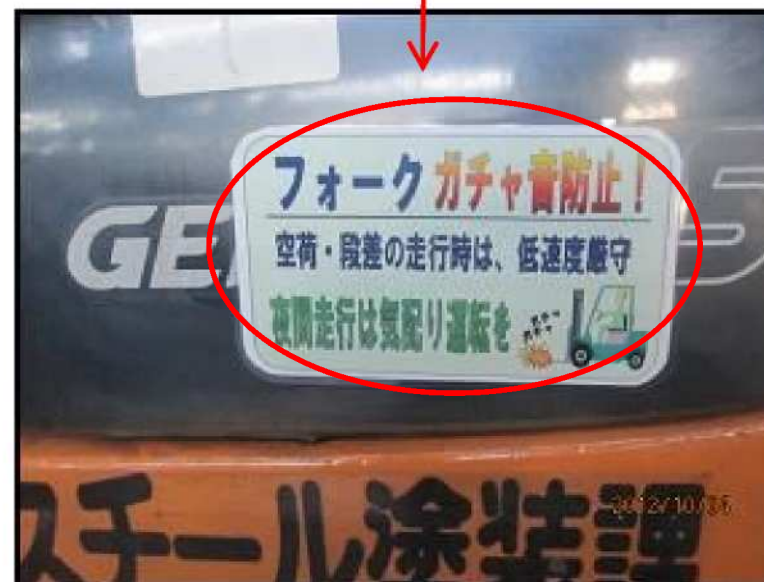
- ・目的 近隣住民への騒音対策

8月環境取り組み説明会で
要望あり

- ・概要 リフト運転手教育
(段差でのガチャ音防止)

バックブザー音量低下

- ・費用 ラベル代、教育工数



(4) 土壌 車両の油流出

・目的 車両の油流出の防止

・概要 トラック業者へ油流出対策を指導

- ①過給油(特に長距離)の防止
- ②点検表に油流出確認欄を追加
- ③納入毎の確認記録証明

・費用 指導、監査工数



作動油系ホースの破れ



燃料タンク過給油、
サブタンクとの連結部

(5) 毒劇物管理の強化

- ・目的 毒劇物の盗難防止
取扱い時の社員の安全確保

- ・概要 規定の全面改訂
保健所に相談し、要求
27項目をチェックシート化
現場の総点検

- ・費用 看板費用、改善工数

医薬用外
劇物

保管場所

保管ではなく、使用の場合は、「使用」にラベル貼付
保管・使用の場合は「保管」

品名	ファイクリン-FCE6415 (水酸化ナトリウム)			製品名 (毒劇物名)
数量	最大数量 15kg/缶X4缶			最大数量 ○○ X △
危険性	①皮膚に触れると炎症 ②目に入ると角膜を傷し、最悪は失明			MSDS記載項目から抜粋
保護具	別紙			使用場所で別掲載
責任者	正	中精太郎	〇〇〇〇 -	責任者は直毎に正副 (役職なしでフルネーム) (該当無しは「-」を入れる)
	副	〇〇〇〇	〇〇〇〇 -	

看板表示



保護具揭示

登録No.	SP下-Q-05	2012年 2月度	原紙
品名	開始在庫量	仕付	1 2 3 4 5
FB-338D RF-4	9 (1缶=10kg)	入荷量 使用量 在庫量 取替者	20 25 30 35 40
AC-131	2 (1缶=10kg)	入荷量 使用量 在庫量 取替者	5 10 15 20 25
FC-E6415-1	3 (1缶=10kg)	入荷量 使用量 在庫量 取替者	3 2 1 0
PL-2TH	1 (1缶=10kg)	入荷量 使用量 在庫量 取替者	2012/02/20

在庫管理



施錠

(6) 有害物質

トヨタ使用禁止物質(510物質)の購入管理

・目的 使用禁止物質を含む物を購入しない

・概要 調達前に、含有成分を調査
含有時は「購入禁止」

・費用 調査工数

35010592	1	梱包費・発送費(ジェータックス向)	42610-60320	株式会社ロジックス
47010568	1	技術部実験棟1.5Tクレーン工事	466843	峰澤鋼機株式会社
47010583	1	実棟油圧ユニット冷却設備工事	TAC5894	東三エアコン商会株式会社
47010585	1	特注カンパン「スイッチ入れるな」	図面表示	ミドリ安全株式会社
62013450	1	タイヤ	195/50R16 ZE912	ダンロップタイヤ中部株式会社
62013451	1	タイヤ	215/60R16 ZE912	ダンロップタイヤ中部株式会社
62013451	2	タイヤ	145R13-8P DV-01	ダンロップタイヤ中部株式会社
70010594	1	試験片作製	疲労試験用	株式会社中川鉄工所
70010595	1	試験片作製	引張り試験片	諸口
70010595	2	試験作製2	衝撃試験片	諸口
70010596	1	α折りたたみコンテナ 発注コード 23	0Lタイプ ダークブルー	峰澤鋼機株式会社
70010596	2	α折りたたみコンテナ 発注コード 00	0Lタイプ ダークブルー	峰澤鋼機株式会社
150010019	1	ポリ手提げ袋(Lサイズ)、150枚	4-74-0774(ネビ)30枚入	豊田共栄サービス株式会社
171015397	1	永年勤続賞状23名分	A3(賞状用)	豊田共栄サービス株式会社
171015397	2	永年勤続カード95名分(大札紙)	厚カード+洋2号封筒	豊田共栄サービス株式会社
171015398	1	永年勤続額縁・筒 23名分	A3	豊田共栄サービス株式会社
171015398	2	カタログギフト リンベル(送料込)	シリウス&ビーナス	豊田共栄サービス株式会社
171015399	1	女子事務服ブレザー冬用	17号	豊田共栄サービス株式会社
171015399	2	女子事務服ベスト冬用	15号	豊田共栄サービス株式会社
171015399	3	女子事務服スカート冬用	17号	豊田共栄サービス株式会社
175010799	1	プロジェクター用 ランプキットMPLK-D4K	-	リコージャパン株式会社
175010800	1	クイックシャッター修理	-	共立工業株式会社
175010801	1	本社事務所椅子引き取り廃却処分	平成24年9月24日付け	豊田共栄サービス株式会社
176010142	1	移動式粉末消火器 整備	なし	浜島防災システム株式会社
176010143	1	ABC粉末消火器(スタンド付き)	10型	浜島防災システム株式会社
176010144	1	ABC粉末消火器(スタンド付き)	10型 (#6組立)	浜島防災システム株式会社
176010145	1	ABC粉末消火器	10型 (#5組立)	浜島防災システム株式会社
176010147	1	第3種消火器 更新工事	なし	浜島防災システム株式会社

毎日、全購入物件を調査

※定期購入品はコード新設時に事前確認

【最後に】

出席されている各社様におかれましては、
「環境異常・苦情未然防止」の必要性を
認識し、改善活動に結びつくよう自社展開
をお願い申し上げます。

以上



以上